

# 看 護

## 1 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

### (1) 指導と評価の一体化の一層の充実

教科「看護」の目標は三つの事項から構成されており、「(1)看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させること」においては、医学や看護学などの進展に伴う医療・看護技術の高度化に対応し、安全で確実な看護を提供することが求められている。

そのため、各学校においては、生徒に基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けさせるとともに、生涯にわたって学び続けていく態度を育成することが重要であり、科目の指導に当たっては、学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められている。

こうした中、平成26年11月の中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」として「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であるとされており、各学校においては、言語活動や指導と評価の一層の充実に向けて、学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かし効果的な指導の在り方について工夫改善を図っていくことが大切である。

### (2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

ここでは、学習指導と評価の改善・充実に向けた例として、科目「基礎看護」の単元「(2)日常生活と看護 ケ 病床環境の整備」における、指導と評価の計画A（改善前）を示すとともに、授業評価を組み合わせた生徒の自己評価シートの評価結果を生かして改善を図った、指導と評価の計画B（改善後）を示す。

#### ア 指導と評価の計画A（改善前）

科 目 名	基礎看護（1学年・4単位）				
単 元 名	(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整				
単 元 の 目 標	1 人間の健康にとって、望ましい環境条件について学習させるとともに、環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響について理解させる。 2 病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識と技術を習得させる。 3 患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解させる。				
時間	学習内容	学習のねらい	評価規準	授業形態	評価方法等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境調整の意義、看護者の役割</li> <li>病室の条件と設備、病床とリネン類の条件</li> <li>物理的環境条件</li> <li>病床の作り方、環境の整え方</li> </ul>	健康にとって望ましい環境条件を理解させ、病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識を身に付けさせる。	健康にとって望ましい環境条件、病床の作り方や病床環境を整えるための基礎的。基本的な知識を身に付けている。（観点：D）	・講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシートの提出期限、記述内容</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>病床の作り方、環境調整の実際（見学）</li> </ul>	患者の状態を判断し、安全と安楽に配慮した病床の作り方や環境整備について、理解させるとともに、整理してまとめさせる。	患者の状態を判断し、安全と安楽に配慮した病床の作り方や環境整備について理解し、分かりやすくまとめている。（観点：B・C・D）	・デモンストラーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの提出期限、記述内容</li> </ul>

時間	学習内容	学習のねらい	評価規準	授業形態	評価方法等
3	・病床の作り方、環境調整の実習とグループ検討	患者の状態に応じた病床の作り方や環境整備について必要な知識と技能を身に付けさせる。	患者の状態に応じた病床の作り方や環境整備について必要な知識や技能を身に付けている。 (観点：B・C・D)	・実技 ・グループ学習	・活動状況の観察・グループ学習の内容
2	・場面設定による環境調整の実習とグループ検討	安全と安楽に配慮した望ましい病床の作り方や環境整備の方法について考えさせる。	安全で安楽な病床環境の在り方と作成方法を考え、分かりやすくまとめている。 (観点：B・D)	・実技 ・グループ学習	・活動状況の観察・グループ学習の内容
2	・グループ発表	安全と安楽に配慮した病床環境の在り方と作成方法について考えた内容をグループで整理し、発表させる。	安全で安楽な病床環境の在り方と作成方法について主体的に取り組むとともに、分かりやすく表現している。 (観点：A・B)	・グループ学習	・活動状況の観察 ・グループ発表

※評価の観点は、A（関心・意欲・態度）、B（思考・判断・表現）、C（技能）、D（知識・理解）

## イ 授業評価を組み合わせた生徒の自己評価シート

授業を振り返ってみよう！【環境整備の考え方】

1年組 番 氏名

○この評価は授業者と生徒の両者で授業をよくしていくことを目的にしたものです。

○「環境整備の考え方」の学習について、あなた自身の学習活動や授業について振り返ってみよう。

\* 観点は、A（関心・意欲・態度）、B（思考・判断・表現）、C（技能）、D（知識・理解）になっています。

\* 評価は4（たいへんよくできた）、3（ややできた）、2（ややできなかった）1（できなかった）の4段階で評価し、当てはまる段階に○を記入しよう。

学習内容	観点	自己評価の内容	評価			
環境調整の基礎知識	A	①授業に向けて、教科書を読むなど予習をしましたか。	①	2	3	4
	A	②学習目標をはっきり明示され、目標を理解して学習に望むことができましたか。	1	②	3	4
	B	③望ましい病室や病床を整えるための設備や条件、物理的環境の重要性は理解できましたか。	1	2	③	4
	D	④病床の作り方について手順・方法・留意点は理解できましたか。	1	②	3	4
環境調整の技術	C	⑤ベットメイキングの手順・方法・留意点を根拠に基づいて考え作成することが出来ましたか。	1	②	3	4
	D	⑥デモンストレーションでの説明は理解できましたか。	1	2	3	④
	C	⑦患者の状況に応じた適切な病床環境を根拠に基づいて考え整備することができましたか。	1	②	3	4
	B	⑧患者の健康状態に応じた環境条件の違いが理解できましたか。	1	2	③	4
	B	⑨場面設定のイメージはできましたか。	1	2	③	4
グループワーク	B	⑩グループ学習で他者の意見を聞きながら、自分の考えをまとめて言えましたか。	1	②	3	4
	B	⑪他のグループの発表を聞きながら自分なりの考えを持つことができましたか。	1	②	3	4
	A	⑫患者の状態に応じた病床環境に興味を持つことができましたか。	1	②	3	4

評価から明確になった課題に対する学習指導の改善充実を図る。

①②⑩より、学習に取り組む関心・意欲・態度が不足している。

↓

主体的に学習に取り組む態度の育成。  
→視聴覚教材の活用やデモンストレーションの実施により意識を向上させる。

④⑤⑦より、病床やベットメイキングの実施に関わる知識技術が不足している。

↓

基本的な知識・技能の育成  
→ワークシートの工夫で知識・理解を深める。  
実技チェックリストの活用や実技テストの実施により技能を向上させる。

⑩⑪より、自分の考えを発表したりまとめる思考・判断・表現が不足している。

↓

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成  
→評価表や発表会を工夫し、考えをまとめたり、客観的な立場で意見交換させる。

ウ 指導と評価の計画 B (改善後)

科目名	基礎看護 (1学年・4単位)				
単元名	(2)日常生活と看護 ケ 病床環境の調整				
単元の目標	1 人間の健康にとって、望ましい環境条件について学習させるとともに、環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響について理解させる。 2 病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識と技術を習得させる。 3 患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解させる。				
評価の観点	A:関心・意欲・態度	B:思考・判断・表現	C:技能	D:知識・理解	
評価規準	・人間の健康にとって望ましい環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響に関心をもち、患者の状態に応じた病床環境の調整について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 ・患者を取り巻く人々と患者との人間関係とその調整に関心をもち、主体的に取り組もうとするともに、実践的な態度を身に付けている。	・患者の状態に応じた病床環境の調整について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。 安全と安楽な視点から逸脱したベッドメイキングやベッド周囲の環境整備のVTRから問題意識を持たせ、主体的学習への動機付けとする	・患者の状態に応じた望ましい病床環境に関する資料を収集し、その意味を読み取り整理しまとめている。 ・体験や実習を通して病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための基礎的な技術を身に付けている	・人間の健康にとって望ましい環境条件について理解している。 ・環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響を理解している。 ・病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識を身に付けている。 ・患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解している。	
指導と評価の計画(配当時間 10 時間)					
時間	学習内容	学習のねらい	評価規準	授業形態	評価方法等
1	望ましい病床環境とは	環境条件が健康回復に及ぼす影響に関心をもち、病床環境の調整に主体的に取り組もうとする意識付けを図る。	健康にとって望ましい病床環境に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。(観点:A)	・VTR視聴 ・グループディスカッション	・活動状況の観察 ・グループ発表の記述内容や発表状況
1	・環境調整の意義と看護者の役割 ・病室の条件とリネン類の条件 ・病床の作り方、ベッド周囲の環境の整え方	健康にとって望ましい環境条件を理解させ、病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識や技能を身に付けさせる。	健康にとって望ましい環境条件、病床の作り方や病床環境を整えるための知識や技能を身に付けている。(観点:C・D)	・講義 ・ワークシート★1	・活動状況の観察 ・ワークシートの提出期限記述内容
2	・病床の作り方、ベッド周囲の環境整備の実際	教員デモンストレーションを参考にして、実際の病床の作り方や環境整備についてイメージさせる。	安全と安楽に配慮した望ましい病床の作り方や環境整備の在り方について、適切に判断している。(観点:B)	・デモンストレーション ・実習記録簿	・活動状況の観察 ・実習記録簿の提出期限と記述内容★2
実技チェックリストにそって、重要となるポイントは丁寧に説明しながら学びを深めさせる。環境整備のデモには、就床患者(麻痺のある患者)等の設定を行い、より臨床に近い状況を感じさせながら、様々な場面において適切な方法を考えられるような態度や能力を身に付けさせる。					
4	ベッドメイキング実技発表(校内実習)	安全・安楽に留意した望ましい病床について、グループ学習により知識・技能を共有させる。	実習を通して病床の作り方の基礎的な技術を身に付けようとするとともに、実践的な態度を身に付けている。(観点:A)	・グループ学習	・活動状況の観察 ・個人評価と相互評価
事前に放課後等を活用しグループ内で実施者、観察者の役割を果たしながら実技練習しておく。1グループの発表に別のグループの生徒が観察者となり評価する。★3					
2	ベッドメイキング実技テスト	望ましい病床の作り方についての基礎的な技術を身に付けさせる。	安全・安楽を留意し望ましい病床を作る基礎的な技術を身に付けている。(観点:C)	・実技テスト	・活動状況の観察 ・生徒個人評価 ・実技テスト

「確かな学力」を育成する取り組み

言語活動の質的な高まり  
 ①疑問を積極的に発言させる  
 ②人の話を聴く態度を育てる  
 ③互いを尊重し合う学習集団に育てる



生徒主体の授業展開  
 ①グループディスカッション  
 ②実際に実践させる  
 ③学びを共有する共同学習  
 ④課題や解決策を見



期待する学習効果  
 ①批判的思考能力  
 ②探究力  
 ③情報探索・推論や予測をたてる力  
 ④コミュニケーション力  
 → 期待する力  
 「考え抜く力」  
 「協働力」

実技チェックリストにそった生徒の個人評価と、観察者役の生徒が行う評価がある。評価には、良い点や今後改善すべき点等の実技発表に対する自由記述欄も設ける。生徒同士の教え合う、学び合うという活動を大切にする。

20項目のチェックリストから評価。資格取得との関連を重視し○が12個以上を(B)とし、11個以下を(C)、16個以上を

エ 学習指導と評価の改善の方策

(ア) ★ 1 ワークシートの改善 (知識・理解)

●グループ発表した問題点や本日の授業内容から、病床の日常生活についてアセスメントしてみよう。  
また、安全・安楽な病床環境に影響する環境因子をまとめてみよう。

活動への影響 ●●

栄養への影響 ●●

排泄への影響 ●

前時のグループワークや授業で得られた知識をまとめさせる。

病床環境

- <物理的環境>
- <人的環境>
- 感染・事故への影響 ●●

睡眠への影響 ●●

体温への影響 ●●

清潔への影響 ●●

左図より、私たちが患者さんにできることは何か、書いてみよう。

患者の病床での日常生活を想起させる。人間は、その環境条件により健康が維持・向上したり、悪化したりすることを具体的に理解させる。特に麻痺のある患者などでは、ベッド周囲の環境は療養生活に大きな影響をもたらすことを認識させる。

●グループ発表した問題点や本日の授業内容から、病床の日常生活についてアセスメントしてみよう。  
また安全・安楽な病床環境に影響する環境因子をまとめてみよう。

活動への影響 ●●

- ぬれた床、手すりのないベッド柵
- 届かないナースコール

栄養への影響 ●●

- 排泄物や食べ物の臭い
- 部屋の明るさ

病床環境

- <物理的環境>
- 病室の広さ、気温・湿度・陽光
- <人的環境>
- 音、寝具、治療処置や看護業務

睡眠への影響 ●●

- 同室者のいびき、治療処置
- 看護師の足音やライト
- シーツのしわや寝具の汚れ

体温への影響 ●●

- 病室の温度・湿度・気流
- 寝具の種類や枚数

左図より私たちが患者さんにできることは何か、書いてみよう。

看護師の足音や医療器具の音も、患者にとっては不快な音になることを知った。特に安静時や麻痺のある患者は自分で動けないため、看護師の配慮が大切だと感じた。患者にとってベッドとその周辺は生活の場なので、患者の生命力の消耗を最小にするよう・・・

(イ) ★ 2. 3 実技練習評価表の改善 (関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能)

必要物品、手順／放課後実技練習日		6/2	6/3	6/4	6/5	根拠と留意点
準備	1. 使用物品を準備する：マットレスパッド、下シーツ、上シーツ、毛布、スプレッド、枕カバー	○	○	○	○	※1上から使用する順番に重ねることで作業効率をあげる
実施	1. 作業環境を整える ①窓を開ける。※2 ②床頭台をベッドから離す。	○	○	○	○	生徒が漏れなく記述できるようにデモンストレーションは、根拠と留意点を確認しながら実施する。
終了	1. 床頭台、椅子などをもとの位置に戻す。	○	○	○	○	日付を入れ、放課後の実技練習チェックシートとしても活用する。手順などまとめた内容を実技の確認項目として、できたものに○できなかったものに×をつける。
観察者評価		自己評価				
評価	観察者評価と自己評価を行い実技練習の振り返りをさせる。評価は、上記でまとめた準備・実施・後片付けでの手順・留意事項等によって行わせる。実施後の良い点や改善点を自由記述するなど、生徒同士の教え合う学び合うという活動を育てる。					

必要物品、手順／放課後実技練習日		6/2	6/3	6/4	6/5	根拠と留意点
準備	1. 使用物品を準備する：マットレスパッド、下シーツ、...	×	○	○	○	※1上から使用する順番に重ね
実施	①下シーツの縦横中央線をマットレスパッドの縦横中心線に合わせて広げる。 ②枕元の余分な下シーツをマットレスの下に入れ、角を三角につくる。 ※7 ※8	○	○	○	○	※7・8三角にすると縦横直角の織目に対して力が真っ直ぐ加わるので崩れにくい。リネンの押入れは、手掌を下に手背は上にして手の損傷を防ぐ。
観察者評価		自己評価				
評価	6/2 マットレスの下にリネンを入れる時に手掌が上を向いていたようです。下シーツの三角はしっかりときれいに作れてました。	6/2	手掌を上にするとうとベッド本体に手がこすれ怪我をするので気をつけたい。三角は45°にすると崩れにくいのが分かった。			